

オアシスだより



オアシス外科・乳腺外科
田嶋 裕子

乳癌検診について

2012年5月1日からオアシス外科からオアシス外科・乳腺外科になりました。乳腺外科の外来では主に検診業務を行いたいと思います。

日本では年々乳癌にかかる方が増加しています。テレビでも時々特集が組まれたりしていますが、皆さんも乳癌という言葉を目にする機会が何かとあるのではないのでしょうか。実際日本人女性のおよそ20人に1人が乳癌にかかっているといわれています。また乳癌にかかる年齢層ですが、30歳代から増加し始め40歳後半から50歳前半にピークを迎えます。まさに働きざかりの世代の女性を直撃するのが乳癌といえます。この話だけを聞くと何だかとても怖いイメージばかりが先行するかもしれませんが、早期に発見し適切な治療ができればほとんど命をおびやかすものではありません。そこで早期発見のために必要になってくるのが検診ということになります。ただ検診といっても何をすればいいかわからない人も多いかと思います。

検査の内容としては視触診、マンモグラフィ、乳腺超音波検査が挙げられます。乳癌診療ガイドライン(2011年版)では40歳代からはマンモグラフィ検診を勧められています。

マンモグラフィとは乳房専用の X 線検査です。乳房を圧迫し撮影台に押さえて撮影します。乳房は脂肪組織と乳腺組織から構成され、マンモグラフィでは脂肪組織の部分が黒く乳腺組織やしこりの部分は白くうつります。しかし乳腺がしっかりしている方(若い方など)では乳腺全体が白く写り、しこりが隠れてみえないことがあります。

次に**乳腺超音波検査**ですが、これは乳房にプローブ(探触子)をあてて周波数の高い超音波を送り、乳房内部から返ってくる音波の変化をコンピューターで画像に変換しその断面図をみるものです。マンモグラフィでしこりがあるかわかりにくい時にも、超音波でしこりの有無を判断できることがあります。したがってマンモグラフィ全体が白く写ってしまいがちな若い人の場合には乳腺超音波検査の方がいいでしょう。ただしマンモグラフィ、乳腺超音波検査にはそれぞれの利点があるため、精密検査においてはマンモグラフィと乳腺超音波検査両方を通常行い判定します。

以上乳癌検診、特に検査の内容について色々お伝えしましたが、乳房に関して心配のある方は一人で悩まずにまずはお気軽にご相談下さい



第10号

平成24年7月2日発行

オアシス第一病院

部署紹介その9

理学診療科

オアシス第一病院 理学診療科(リハビリテーション科)です。

私達オアシス第一病院 リハビリテーション科はオアシス第一病院東側に機能訓練室を構え、理学療法士(2名)、作業療法士、言語聴覚士、マッサージ師、リハビリ助手(各1名)計6名からなる部署です。

私達は、入院及び外来患者様を対象に運動療法(関節可動域訓練、筋力増強訓練や歩行訓練等)、作業療法(上肢や手指を使った作業活動、日常生活動作訓練等)、言語療法、摂食嚥下訓練、物理療法(マッサージ、電気治療や温熱治療)等を提供することで病気やケガで様々な障害を持つ方に対して、その障害の回復や軽減または残された能力を最大限に高めることにより、身体的、精神的、社会的に生きがいのある生活が送れるようリハビリ業務を通して手助けできるように努めています。

体力面の低下を気にされている方、運動によるダイエット、歩行補助具(靴、杖、歩行器等)、装具、コルセットの作製等の相談にも随時対応させていただきます。どうぞお気軽にリハスタッフに声をかけて下さい。また、訓練室は春には大野川沿いに桜を望める景色の良い場所となっ

ています。是非一度お越し下さい。今後もオアシス第一病院リハビリテーション科をよろしくお願い致します。

《理学診療科》 理学療法士 尾崎 潤



お問い合わせ
医療法人善昭会

オアシス第一病院

〒870-0103 大分市東鶴崎3丁目3-19

電話 097-527-2211 Fax 097-522-0511

